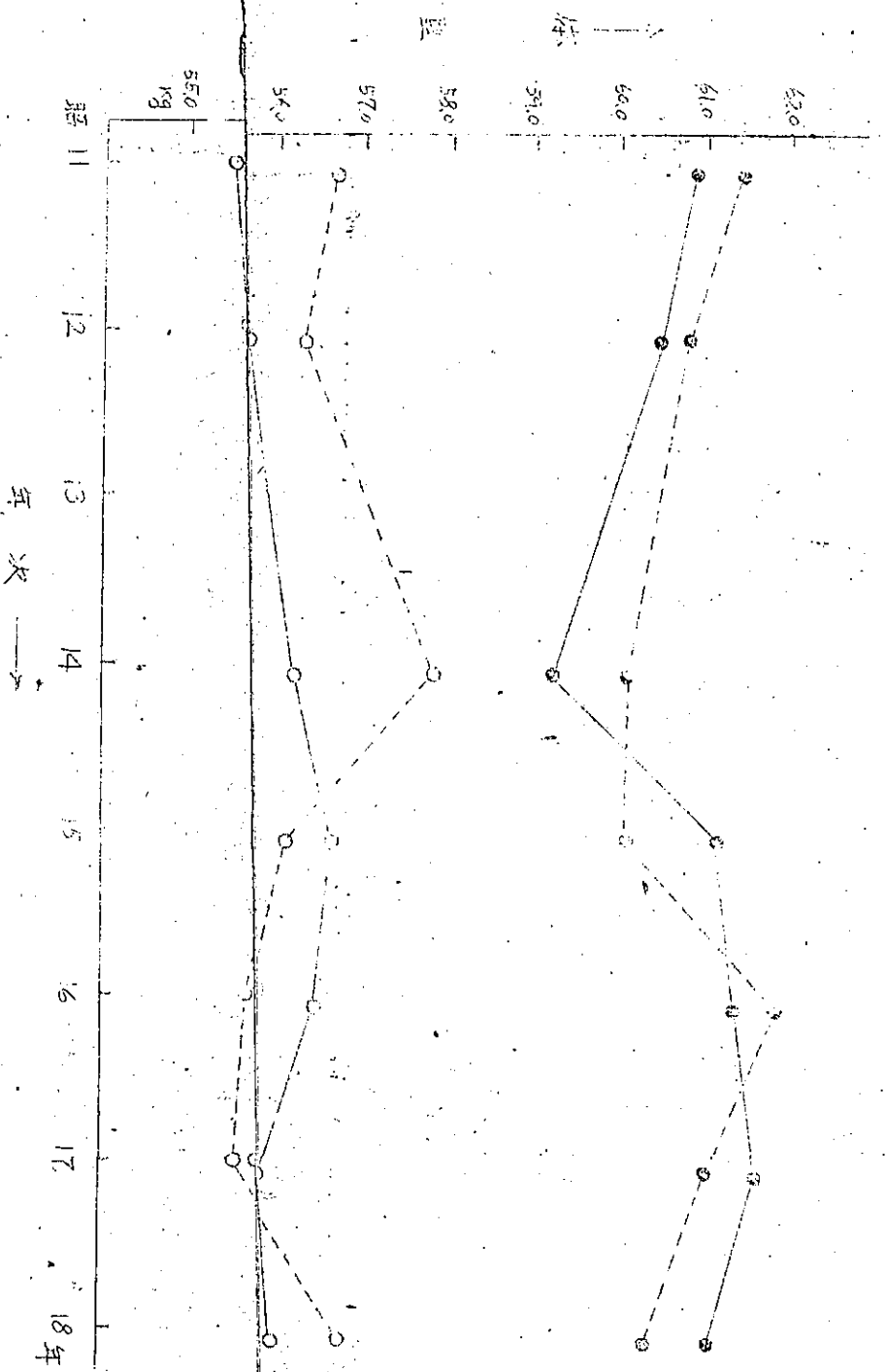


圖 13

移 推 年 逐 / 重 平 均 實 於

(八) 行 數 帳 帳 (八)



○—○	28	3	7	牌	重
○—○	40	—	55	才	勞
○—○	28	—	37	才	激
○—○	40	—	55	才	勵

第 14 頁

支那軍校新編前、後五変化
 成人男子體重

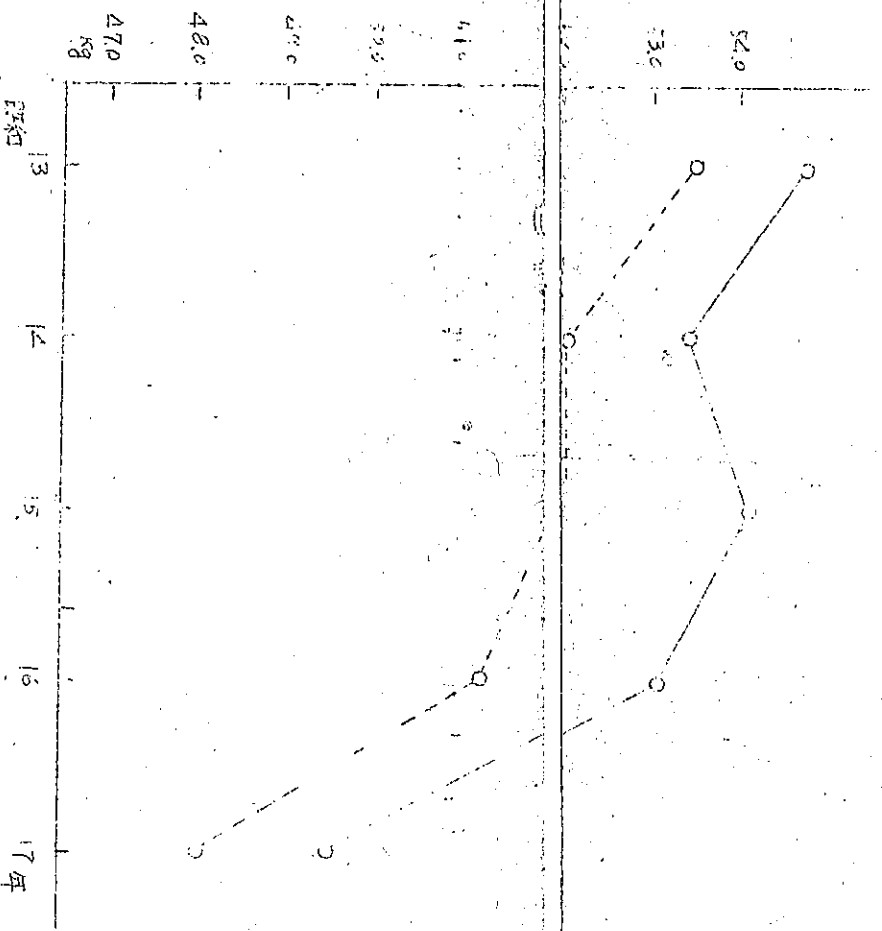
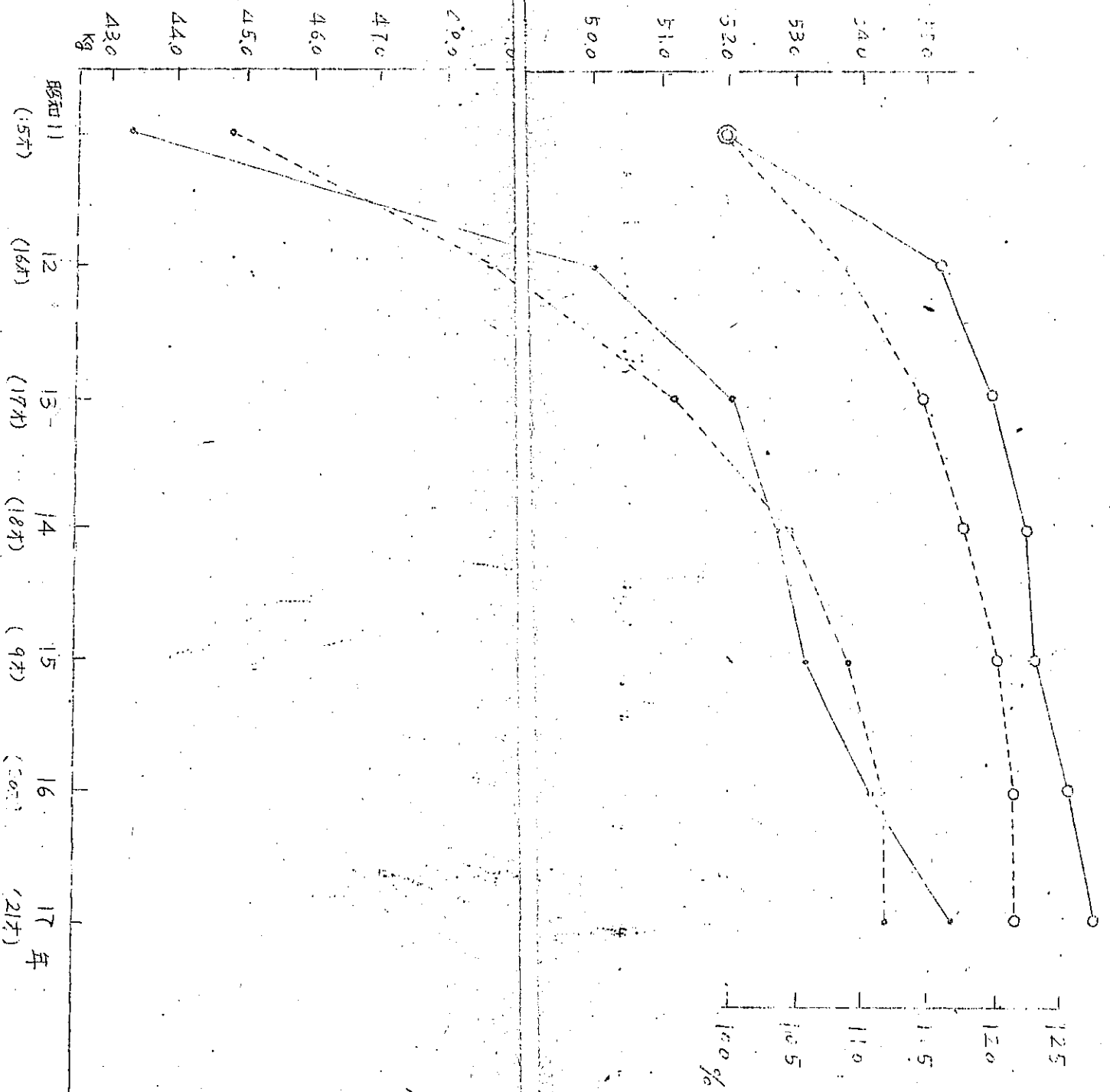


表 1
 線ハ 滿二才一三才ノ群
 線ハ 滿四才一四九才ノ群

1914

第15図

昭和18年 = 滿22才ノ成年男子ノ體重ノ逐年
変化曲線



○—○ 昭和18年 = 滿22才ノ成年男子ノ體重ノ逐年推移 (昭和11年—17年)

○- - - ○ 全國男子平均體重ノ逐年推移 (15-21才) 文部省調査 明治33年—大正12年南ノ平均値

○—○ 昭和11年ヲ100トシ、各年ノ平均體重ヲ%ニシテハシタモノ

○- - - ○ 15才ヲ100トシ、各年ノ平均體重ヲ%ニシテハシタモノ

附錄

戰時下帝都牛乳供給ノ変遷ト現状

目次

- 一 緒言
- 二 帝都牛乳供給量ノ消長
- 三 乳量減少ノ原因
- 四 乳児用牛乳ノ必需量
- 五 乳児用牛乳ノ配給実績
- 六 牛乳保健行政緊急対策

戦時下、帝都牛乳供給ノ変遷、現状

一 緒言

牛乳供給事業が戦時下或ハ人口ノ増強ニ或ハ健民ニ軍需ニ緊要ナルコトハ多言ヲ要シナイトコロデアツテ時ニ大都市ニ於ケル母子尿健上緊要ナル公益事業タル特質ヲ有スルコノ牛乳供給事業ハ牛乳ノ本質及大都市ノ地理的又ハ人文的諸事情ニ於テ諸種ノ困難が伏在シテ居ル關係上若シ大都市ニ於ケル本事業ニシテ衛生的ニ將又經濟的ニ十全ヲ期シ得ラレシ其ノ實情ヲ以テ他ヲ律スル様ニスレバ他ノ諸中小都市又ハ町村等ニ在リテハ其ノ牛乳供給上ニ何等ノ不安アルナキハ亦多言ヲ要セザルトコロデアル。而シテ帝都ハ我國最大ノ都市デアツテ戦時下牛乳供給上幾多ノ困難アル実情ニ之ヲ適正ニシテ安全ナル牛乳供給ヲ達成セムガ爲ニ諸種ノ省察ト工夫トヲ要スル問題デアツテコノ省察ト工夫トハ採ツテ以テ之ヲ他ノ府ボスコト

が出来るノデアル。仍テ茲ニ標記ノ題下ニ賦時下ニ於ケル帝都牛乳供給ノ
 骨子ヲナシテ居ル諸点ニ省察ヲ加ヘ以テ其ノ全貌ヲ明ニ致シ度イト思フ。

二 帝都牛乳供給量ノ消長

帝都ニ於ケル牛乳供給事業ハ昭和八年牛乳管業取締規則ノ改正以來四曲
 ノ争情乃至社会情勢等ニヨリ断次合理化ノ傾向ヲバ辿リツクアリタルが最
 近ノ時局的要請ハ急激ニ牛乳ノ販理販売業ヲ其ノ経営形式上合理化セシム
 ルニ至ツトハイハ牛乳ノ小売販売業ハ未ダ尙ホ旧態依然タルモノガアル
 爲メニ帝都牛乳供給事業ノ形態トシテハ未ダ眞ノ合理的経営ヲナシ難ク從
 テ現下ノ牛乳並之ニ関係アル労力資材等ノ不足事情ニ対廠シテ牛乳ノ重点
 的配給ヲ行ハントスルニハ配布時間ノ経過ヲ長カラシメ或ハ横流れ等牛乳
 ノ運送安全ナル供給上ニ遺憾ノ点多ク之ガ解決ハ今後ニ残サレタル牛乳行
 業上ノ大キト困難トナツテ居ルノデアル。

頃マテハ西國ナル如ク是ヲ統テ居ル事ニ至リテ今日ニ至ツテ居ル。昭和
 時代ヲ呈シタガ爾後急激ナル落潮ヲ示シテ今日ニ至ツテ居ル。昭和
 十二年以降東京都区内ニ於ケル各牛乳販理場ノ販扱ア一日平均牛乳販理高
 ヲ調ベテ見ルト左ノ如クデアル。

年次 乳量 備考

昭和十二年	四七九石	
十三年	五五七石	
十四年	六八三石	四月酪農業調整法実施セラレ
十五年	六八四石	七月牛乳配給統制規則発令セラレ
十六年	六一〇石	
十七年	四八〇石	
十八年	三四五石	実ニ最奇期時代ノ半量トナル

三 乳量減少ノ原因

前述ノ如ク昭和十七年以降牛乳ノ供給量ニ大ナル異変ヲ生ジタル原因ハ
總括的ニハ結局戰爭ニヨル諸事情デアルガ之ヲ分析的ニ省察スレバ次ノ數
項目ニ分類スルコトガ出来ル。

(一) 飼料ノ不足

從來我國乳牛ノ濃厚飼料ハ海外ニ依存シテ居タ關係上其ノ絶対量ノ
不足ハ止ムヲ得ナイトコロテハアルガ特ニ搾乳專業者ニ對スル飼料
ノ人爲的配給不足ノ事實アルハ遺憾デアル。

(二) 都区地域ニ於ケル專業者乳牛數ノ減少

勞力ノ不足ニヨル乳牛ノ飼養廢止又ハ專業者ニ對スル飼料ノ配給ノ
人爲的不円滑ニ基ク乳牛ノ農村販出數多キニ對シ之ガ補充難ニヨリ
農産部下專業者ノ飼養スル乳牛數ハ四八。〇頭ヨリ約一割ヲ減少セ

い 地方官報ニ在リ 出資者

酪農調整法ノ施行ハ地方ヨリ都区へノ移入乳量ノ著シキ減少ヲ表
シタルガ最近都下專業者ノ生産スル乳量ノ激減ニヨリハ、出荷抑制
ハ多少緩和セラレタリ。

(三) 夏季酸高又ハ酸敗牛乳ノ頻出

勞力又ハ資材ノ不足及農家搾乳衛生思想ノ不足ニヨル。

(四) 乳價ノ改訂

牛乳ノ卸売価格ハ昭和十七年七月以降從來ノ一律主義ヨリ脂肪買制
ニ改メラレタル結果營業者ハ牛乳ノ薄キ部分ノ棄却又ハ加水抑制等
濃厚牛乳ノ獲得ニ願心スルニ至レリ。

以上列挙シテ諸原因ハ独リ東京都ノミノ問題デハナク全国的ノ問題デア
ルガ之等ハ相錯綜シテ遂ニ其ノ乳量ヲ着減セシムルニ至ツタノデア
ル。

又前記ノ原因ハ一ニ牛乳ノ供給側ヨリ見タルモノデアツテ特ニ飼料不足

ノ点ハ原因中ノ原因トモ称ス可ク之ヲ除却スルニ非ザレバ乳牛ノ頭数ハ増ストモ乳量ノ増加ヲ期待スルコトハ大ニ敷イト謂ハネバナラヌ。

更ニ又牛乳不足ノ声ヲ大ナラシメテ原因トシテ牛乳ノ需用側ニモ乳幼児用牛乳ノ増加其他牛乳ニ対スル一般的要求ノ増加等ノ諸原因ノアルコトヲ拒ムコトハ出来ナイトコロデ次ニ乳幼児用牛乳トシテノ要求量ニ付テ稍々詳述スルコトトスル。

四 乳児用牛乳ノ必需量

東京都区内ニ於ケル乳児用牛乳量ハ幾何量ヲ必要トスルカニ付テ考察スルニ昭和十四年東京府衛生課及昭和十五年育嬰協会ノ行ツタ特別調査ニヨルトキハ人工又ハ混合栄養ヲ必要トスル乳児数ハ調査乳児数ノ前者ハ二七%ヲ後者ハ二六%ヲ挙ゲテ居リ此等ノ数字ハ地理的又ハ人文的諸事情ニヨリテ多少ノ変動ハ免カレナイニシテモ此等ノ数字ハ共ニ東京都区内ニ於ケル

キモ亦或ル程度ノ低下ハ免カレナイトコロデアリ今日デハ東京都区内ニ於ケル乳児ノ人工又ハ混合栄養ヲ必要トスルモノヲ總乳児数ノ三〇%ト見ルハ寧ろ過小ナラズヤトモ思ハレルガ専門家ノ面ニハ此ノ数字ガ基準トナツテ居ル様デアルカラ今左ニコノ三〇%ヲ用ヒテ東京都区内ニ於ケル乳児用牛乳ノ必需量ヲ計算シテ見ルコトトスル。然ルトキハ東京都区内ニ於ケル乳児数ハ大抵ニシテ十八万人デアルカラ人工又ハ混合栄養乳児数ハ五万四千人トナルコノ乳児ガ一人一日当平均三合ノ牛乳ヲ用ヒテ居ルトスルト其ノ所謂乳児用牛乳量ハ一日一六ニ石ヲ要スルコトトナルノデアアル。

然ルニ實際尙懸トシテハ従来東京都区内ニ於ケル人工又ハ混合栄養ヲ必要トスル乳児中牛乳以外乳製品ヲ用ヒテ居ルモノガ相当数アルコトハ育嬰協会ガ昭和十五年ニ調査シタトコロニヨツテ明カナ事實デ調査乳児中粉乳ヲ用ヒテ居ル者ガ五〇・六%牛乳ニ依ルモノガ四三・七%煉乳ガ三・四%

重湯ガニ・三%デアリ牛乳ニ依ルモノノ数が比較的少イトイフ事實ハ東京
都区民ノ牛乳ニ対スル理解ノ充分デナイ爲メデアルト見ルコトガ出来ルノ
ガ何レニシテモ牛乳ヲ用フル乳児數ハ人工又ハ混合栄養乳児數ノ大体半數
ト見レバ蓋シ誤リノナイトコロデアリ此ノ數字ヲ通シテ東京都区内ニ於ケ
ル乳児用牛乳ノ必需量ヲ算出スルトキハ前記ノ一六ニ石ノ半量即チ八一石
ノ牛乳ト之ト全量ノ牛乳ヨリ造ラレタ全粉乳ニ七〇箱ハ一石ノ牛乳ヨリ全
粉乳四〇箱度ガ出来其ノ一ニ封度ヲ一箱内ニ納メタルモノノ數トガアレ
ハヨイトイフコトニナルデアアル。

五 乳児用牛乳ノ配給実績

然ルニ又東京都区内ニ於ケル牛乳配給ノ実績ニ徴スルトキハ昭和十八年
四月現在ニ於ケル配給ノ第一順位ノ対象タル乳児用牛乳量トシテハ
乳児數五八六四三名ニ対シ一五二・六七五石ノ配給乳量ハ一人一日當ニ

六五六一五名ノ乳児ニ対シ一八三・七二ニ石ハ一人一日當ニ一八合ノ

配給乳量トナツテ居リ

此ノ外更ニ五〇〇箱ノ全粉乳（之ヲ牛乳量ニ換算スルトキハ一五〇石ト
ナル）ガ配給サレテ居ルデアアル。

故ニ東京都区内ニ於ケル乳児ノ用ヒテ居ル牛乳量ハ実績トシテ一日量三三
三・七二ニ石トナリ牛乳ノミヲ以テ人工又ハ混合栄養料トナストキハ東京
都区内ニ於ケル現在ノ牛乳供給量ノ総額全部ヲ乳児用ニ充テナケレバナ
ラナイコトトナツテ居ルデアアル。

此等牛乳及乳製品ノ配給量ハ主トシテ医師ノ証明ニヨルモノデアアルが今
東京都区内ノ人工又ハ混合栄養ヲ必要トスル乳児中牛乳ニヨルモノノ割合
ヲ算出スルニ昭和十八年四月ニ於テハ三二・六%デ今年十一月ニ於テハ三
六・四%トナリコノ牛乳ヲ用フル乳児數ノミデモ既ニ前掲ノ従来ノ基準數

ト見ラレテ居ル三。%ヲ明ニ超過シテ居リニニ乳製品ノミニヨルモノヲ加算スルトキハ証明書ノ遊登問題モアツテ相当割引カル、コトデハアラウが恐クハ東京都区内ノ乳見数ノ約半数ガ人工又ハ混合栄養ヲナサレテ居ルモノト推定セラレ上掲ノ牛乳量ト共ニ其ノ数ノ意外ニ多イ事實ヲ窺知シ得ラレルノデアル。

又昭和十八年四月現在ニ於ケル乳見一人一日当ノ配給牛乳量ハニ・六合デアツタノニ対シテ半年ヲ経過シタル十一月現在ニ於ケルソレハニ・八合ニ増加シテ居リ此ノ一人当配給乳量ノ上昇シテ居ル事實ハ牛乳又ハ乳製品ヲ必要トスル乳見数ノ増加ノ事實ト共ニ母乳不足ノ事實ヲ裏書シテ居ルトコロデアリ實ニ授乳婦ノ栄養状態低下ノ一証尼トモ見做スコトガ出来ルノデアル。

右ノ外尚本満ニ才未滿ノ幼見ニ対スル必需部面ヲモ加ヘタル牛乳配給部面ヨリ見タル調査ノ実状ニ於ケルコトキハ前記ノ如キ証明書ノ遊登問題ハ、
乳ヲ居ル事實ヲ知ルコトガ出来ルノデアツテ斯カル事實ハ要スルニ時局下牛乳保健行政ノ重要性ヲ如實ニ示シテ居ルモノト謂フベキデアル。

六、牛乳保健行政緊急対策

以上ハ東京都区内ニ於ケル乳幼児ノ需用ヲ中心トナス牛乳ノ量の供給部面ヲ主トシテノ状況デアツテコノ乳幼児牛乳トシテノ量的肉原ニ於テハ今日ノトコロハ大体過不定ノナイ状態デハアルガ決戦下飛行機ノ増産ニ伴ヒ牛乳蛋白ノ需用亦着増ヘ従来ノ製造量ノ約四倍ノ事實ニ鑑ミアラユル角度ヨリスル牛乳ノ増産ハ刻下喫緊ノ事項デアリ牛乳ノ保健衛生行政部面ヨリノ角度トシテハ牛乳酸敗防止ニヨル増産ヲ図リ併セテ現下ノ牛乳供給事業当面向題タル労力飼料及燃料等ノ不足就中石炭ノ逼迫ニ伴フテ牛乳處理ノ完璧ヲ期スルコト能ハサル向題例ヘバ冬期向ニ於ケル生牛乳ノ供給向題ノ如キ或ハ又牛乳場ノ補充難ニヨル牛乳ノ屢次販売ノ不能向題等幾多牛

乳ヲ質的ニ低下セシムル虞アル諸事項ニ付キ或ハ^五牛乳及乳製品ノ一元的
消費規制ノ如キ適當ナル施策ヲ要スルモ、ト恩料セラル。

食糧事情ヲ通ジテ觀タル榮養狀況調査

厚生省研究所國民榮養部

總目次

調查ノ經過及成績概要

附表(調査表)

對象別調査成績

其ノ一 國民學校児童

其ノ二 妊婦

其ノ三 重要事業場勞務者

其ノ四 都市給料生活者

調査、経過及成績概算

昭和十七年度ニ於テ実施報告ヲ了セル「国民栄養現況調査」ヲ反復続行セシメテ、閣下ニ決定セル「昭和十八年度栄養現況調査実施要綱」(附表一参照)ニ従ヒ、昭和十八年十月所要調査票(昭和十八年十一月)ヲ調製シ、十一月初旬ヨリ中旬ニ亘リ主トシテ都道府縣又ハ市当局等ヲ通ジ調査対象関係機関ニ之ヲ配布シタリ。

調査対象ハ(一)国民学校児童、(二)妊婦、(三)重要事業場労務者、(四)都市給料生活者ニシテ、回収調査票ニ就キ昭和十九年一月八日迄ニ集計(大部分完了)シタル調査成績ハ各対象別ニ取リ纏メ詳細報告スル處アレドモ、先ツ之ヲ簡潔ニ要約シテ冒頭ニ記述シ以テ大勢ノ把握ニ資セントス。

(一)調査範囲ニ於ケル国民学校児童ノ辨当ヲ携帶マズニ登校スル者ハ、十七年度調査成績ニシテヨリ十八年度ノ一・六%ト減少シ、学童家庭ノ極端

ナル食糧増産ハ一應妥和サレタリ如ク見受ケラル、反面、携帶辨当ノ主食カ
少産ナリト認メラルルモ、十七年度ニ於テハ却ツテ増加ノ傾向ヲ示シ、郡
部ニアリテハ一〇%、都市ニテハ二%ニ違ス。食糧不足勝チナガラ配分
ノ均等化ニ一歩ヲ進メタルモノト解スベキナランカ。携帶辨当副食ノ内容
的可否ノ割合ハ都市及郡部間ニ於テ差違ナク、副食不良辨当（主トシテ漬
物ノミ）ハ三五%ニ違ス。十七年度調査ニ於テハ二七%程度ナルノミナラ
ズ都市ハ郡部ニ比シ少数ナリ。即チ都市児童ノ辨当副食カ前年ニ比シ郡部
ノソレニ接近劣化シ来レルコトヲ示スモノナリ。

児童ノ家庭ニ於ケル食糧採取状況ニ懸テハ、郡部児童家庭ノ一部（一七
%）ヲ除キ大部分ハ配給米ノ不足ヲ訴ヘヨルガ、減食又ハ缺食スル者ハ二
一四%ニ達セズ。他ハ諸種補給食ニ依ツテ又ハ粥・「オジヤ」等ノ増嵩的
調理法ヲ以テ之ヲ対応シナリ且ツ其ノ数を増加セリ。又副食品ニ肉シテハ

限用回数ノ点ヨリ觀レバ必ズシモ栄養達成ニ不備ナリトハ認めラレズ、
問題ノ主トシテ蔬菜ノ種類ト量ニ關スト言フヲ得ベシ。尚児童カ家庭ニ
於テ何等カノ栄養劑ヲ用フルコト殆ド流行的ニシテ、都市ニ於テ四〇%
、郡部ニ於テニ〇%ヲ算スルハ注目ニ値スル處ナリ。

児童ノ栄養状態ヲ判断スル一指標タルベキ学校身体検査時ノ「要注意
シ」十七年度ノ四%ニ対シハ%ト増加傾向ヲ示セリ。而シテ總体的ニ見
テ都市及郡部間ニハ差違ヲ認めサルガ、北海道及東京都ニ於テハ市部ガ
郡部ニ比シテ可成リ高率ヲ示シ、宮城及香川ノ所屬ニ於テハ正反對ナル
コトヲ見ツ。但シ食糧事情トノ関聯性ハ之ヲ解釋シ得ズ。

（三）妊婦ニ於テハ、家庭配給米ニ対スル不足ノ訴ハ大都市、中小都市及
郡部ノ三階級地区共十七年度調査成績ニ比シ一〇・一四%ノ増加ヲ示シ

中小都市ニ於テ最高率ナリ。姓婦自身ノ主食糧低下傾向モ之ト孰ヲ一
 ニシテ中小都市ニ於テ顕着ナルヲ見ル。増益的調理法ノ増加ハ姓婦ノミ
 ナラス学童及都市給料生活者ノ何レノ調査対象群ニ就テモ同様ニ認めラ
 ル、慶ナルケ、一日一回以上粥又ハトオシヤレヲ用フル姓婦ガ都市ニ於
 テ約半数ヲ占メ郡部ニ於テハ都市ノ約三分ノ二程度ナルガ十七年度調査
 成績ニ比シ何レモ粥ハ二五・五。％又ハトオシヤレハ数倍ニ増加セルハ
 注目ニ値スル激ナリ。尚主食中玄米ノ使用ハ三階級地区ヲ通ジ前年度ノ
 一・一〇・ニノ僅少ヨリ六一・八。％ト急増セル反面、郡部ニ於テハ八
 〇・一。％ノ前年度一三。％ノ白米が使用サレタル状況ナリ。次ニ副食中魚介
 類ノ消費ノ程度ニ於テ白米が使用サレタル状況ナリ。次ニ副食中魚介
 類ノ消費ハ之ノ取扱目致ヨリ概シテ減少傾向ヲ辿リ殊ニ大都市ニ於
 テ顕著ナルヲ見ル。又他調査ニ就テハ、調査ナラサルカ或ハ調査区々ナリ。

五八

食糧購入ノ実務ノ上ニ當リ、調査ノ結果ハ、調査ニ就テモ一若ニ都市ニ於
 テ郡部ヨリ大ナリト認めラレラレガ、本調査ニ於テ郡部及中小都市ニテ
 此ノ割合が僅カナリ、増カニ増加シ来レリ。之ガ要因ハ單純ナラザレド
 モ、其ノ一部ハ食糧事情ニ帰スベキモノナラン。而シテ其ノ食料購入所
 要特向ハ大都市ニ於テハ前年度調査成績ニ比シ減少シテ改善ノ傾向明カ
 ニ認めラレ、中小都市ニ於テハ反対ニ増加シテ事情悪化ヲ示ス。之
 等ハ食糧事情特ニ配給事情ノ反映ト見ルヲ得ベシ。
 姓婦調査ノ部面ヨリ總括的ニ觀レバ、食糧事情ハ中小都市ニ於テ特ニ
 劣化セルモノト認めラレ。

其ノ他前年度調査成績ニ比シ遊婦ノトムシ齒ニ及脚氣ハ全般のニ増加
 セリ。

(三) 重要事業場労働者ニ就テハ、十八年度分ノ調査ハ厚生省労働局ノ行
 ニ九

ハル、五月、六月ニ於ケル調査資料ニ依據セルモノニシテ、調査時季ヲ異ニ
スルノミナラズ調査方法ノ完全ナル一致ヲ欠クタメ十七年度分ノ調査ト
適確ナル比較ヲナシ得ザレドモ、大體的ニ觀テ殆ド差異ナシ。肉東、東
海、近畿三地区ノ平均ニテ給与栄養量(向食)食热量等ハ計上セズハ
總熱量ニ三七五カロリー、總蛋白質八五克、動物性蛋白質ノ總蛋白質
量ニ対スル比率ニ八%ナリ。即チ少クモ總熱量ニ於テハ不安ノ虞ナキニ
アラズ。

地区別ニ概観スレバ、肉東、東海、近畿、中国、九州ノ内、九州及中
国ハ概シテ給与栄養量優リ、肉東最劣レリ。栄養別ヨリ觀レバ總熱量及
總蛋白質量ニ因シテハ金屬工業及化学工業良ク、機械器具及紡織ノ兩工
業ハ劣ル。且シ動物性蛋白質ノ割合ニ於テハ紡織工業最優レリ。
尚且チ度ノ調査ニ於テ共通的ニ包含サレタルニ十三工場ヲ抽出シ、之

ニ於テ兩年度取替ヲ比較スルニ、總熱量ニ於テハ殆ド同一ナルガ、総蛋白質
自質量、動物性蛋白質ノ割合並ニ食費ハ概シテ若干ノ増加ヲ示セリ。

(四) 都市給料生活者ニ於テハ、各種主食(米飯類及代替品)相互ノ摂取
回数ノ割合、各種副食品ノ一日当摂取回数、各種副食品及向食ノ一日
当摂取回数等ハ、男女・職業並ニ家庭生活者ト單獨生活者トノ相違等ニ
ヨリ必ズシモ明確ナル異同ヲ示サザレドモ、概シテ得ベキ傾向的差異
ヲ示ス(例ヘバ向食回数ハ男性ヨリ女性ニ於テ多シ)ト共ニ、調査都市
ノ地方的特徴・色彩ハ以テ食習慣ト現下食糧事情ノ一端ヲ窺知スルニ足
ルモノアリ。例ヘバ主食中玄米ノ摂取回数割合ハ、大阪一四%、札幌五
%、新潟八、大阪ニニ%、仙台一%、福徳ハ仙台一%ニシテ広島及福岡ハ
ニ%等立レナリ。

概居的ニハ学童及妊婦ノ調査成績特ニ其ノ都市ニ於ケルモノト同一傾

向ヲ示シ 又之等ヲ裏付ケルモノアリ。即チ主食トシテノ米代替品ノ使用スハ米ニ対スル混合割合等ハ前年度成績ニ比シ一般ニ増加ノ傾向ヲ示シ、又副食品ノ使用品目數ハ減少シ時ニ動物性食品、油脂及果物ニ於テ顕著ナリ。尚食ノ摂取回數モ亦減少ノ傾向ヲ示ル。

(五) 以上四対象ニ就テノ調査成績ヲ更ニ綜合概観スルニ、重要事業場労働者ヲ除キ爾他ノ対象ニアリテハ、其ノ摂取食物ハ質的ニモ量的ニモ十七年度調査成績ニ比シ概シテ劣化傾向ニアリト言フヲ得ベシ。

學童の栄養調査

調査児童數

學級擔任者

児童	秋田 岩手 河津 岩手 川添 岩手 川添 国民學校初等科 六年 女 組
調査期日	第1回 11月 30日 第2回 12月 1日 第3回 12月 2日
保護者職業	無 児童氏名又は番號 28 年齢満 12歳 性 男
一年間に於ける體重・身長・胸圍の増加	(前学年始めと本学年始めとに於ける差) 體重 43 kg 身長 42 cm 胸圍 1.5 cm 養護注意の有無 無

記入上の御注意

學童の栄養 學校辨當に於ては3回調査を願ひます。携帶狀況は3回の調査中それぞれ持つて来た回数食べに歸へる回数等を記入して頂きます。その他各項目については該當事項に○印をつけて下さい。例へば、辨當の主食が米の場合には「米」に、その量が少い時には「少」に、副食品に動物性食品がある場合には「アル」に、無い場合には「ナシ」に、又其の量が多い時は「多」に、(植物性食品及漬物に於ても全く同様) ○印をつけて下さい。主食の種類は、「米」、「米麥」の二種を欄に挙げて置きましたが、その他の場合は次の「その他」の欄に記入して下さい。副食品の品名は「品名」の欄に記入して下さい。

家庭食 家庭食では主食に於てそれぞれ該當事項に○印をつけて頂きます。例へば自家保有米の場合にはそこに、不足して混食の場合には「混食をする」に○印をつけて下さい。副食に於てはそれぞれの品を月に食べる回數を記入して下さい。栄養劑を用ひる場合に「用ふ」に○印をつけて下さい。

要 急

第

(1)

妊婦栄養調査票

<p>1 記入日</p> <p>年 月 日</p>	<p>2 住所</p> <p>府 縣 町 村</p> <p>都 市 区 町</p>	<p>3 年 齡</p> <p>妊娠何ヶ月ですか</p> <p>歳(數へ年) 月</p>	<p>4 病 氣</p> <p>妊娠以來かゝつた病氣に○印をつけて下さい 脚氣、肺結核、肺浸潤、肺炎カタル、腎臟炎、 下痢腸炎、夜盲症、ムシ歯、</p>	<p>5 主 食</p> <p>あなたの家は配給米で足りるますか 足りる 足りない</p> <p>どんなお米を食べてゐますか 配給米(米、豆、甘藷、馬鈴薯) 白米、玄米、 七分搗米</p> <p>どうして食べてゐますか おぢや、 かゆ、 飯</p>
<p>一日何回食べてゐますか 一日全部で飯やかゆを何杯づゝ食べてゐますか (大、中、小) 回</p>	<p>6 副 食</p> <p>材料の買入を誰がするか 本人() 日 回) 其他</p> <p>毎日買入にどの位時間がかかるか 時 分</p> <p>あなたは此頃次の食品を何日に何回位食べま すか</p> <p>魚介類及其の加工品 日 回</p> <p>味 噌 日 回</p> <p>卵 日 回</p> <p>豆 類 日 回</p> <p>藷類及麵類その他代用食 日 回</p> <p>果 物 日 回</p> <p>油 物 日 回</p>	<p>7 希 望</p> <p>あなたの食物に對する希望を書いて下さい</p>		

◎ 注意 不要の字は消して、必要の箇所に○印をつけて下さい